

○県では、「キャベツ16億円産地計画」(目標年次;平成32年度)を策定し、平成29年度(中間年)に栽培面積260ha、販売額10億円を目指す。
→「県域キャベツ」を推進するうえで、以下の取り組み実施。

※遊休農地等を活用した大規模農業団地を整備すると共に、**法人経営体を中心に単収向上に取り組み、計画生産・出荷できる体制の整備。**

※温暖な南部から冷涼な北部地域にわたる県域での**周年安定供給産地の構築。**

○ターゲットとするha規模の法人経営体の多い県中部での、春・秋作での単収を確保し、**栽培の成功体験から、大規模栽培に誘導。**

○県南部において、県内で事例の少ない晩抽性品種を用いた3～4月出荷と被覆資材を用いた**冬越し4～5月出荷の実証**に取り組み、意欲ある経営体をモデルとして育成。

具体的な成果

1 ロット確保のための大規模農業団地の整備

- キャベツ生産の核となる農業団地創設支援(H27 → H29)
 - ・団地数と栽培面積
 - 0団地 → 4団地, 24ha**

2 担い手が中心となった産地を育成

- 核となる法人経営体の安定生産への支援(H27 → H29)
 - ・栽培面積拡大による出荷量増
 - 140ha(H27) → 194ha(H29)**
(大規模農業団地面積含む)
 - 4,419t(H27) → 5,791t(H29)**
 - ・水田転換畑での新たな栽培法導入による単収の向上
 - 3.4t/10a(H27) → 4.2t/10a(H28)**
- 県域でのリレー出荷による周年出荷の実現
 - ・南部の12～5月、北部での6～11月
 - 長期安定生産モデル経営体を育成



普及指導員の活動

平成27～29年度

- 普及指導員が中心となり、「キャベツ栽培の手引き」、栽培リーフレットを作成。
- 南部4・5月どり、高冷地夏どりの**栽培実証**。
- PDCA管理**実施のため、統一様式を作成、研修会を活用し、ターゲット経営体へ紹介し、普及推進。
- 水田転換畑**での新たな栽培法を提案、県域での展示ほを設置、優位性を確認。
- 大規模経営体での省力化に向けた全自動収穫機の実証。
- 調査研究**を活用し、県西部において、収穫出荷等の作業受委託に係る事例調査と試行。
- 県域での**長期安定生産モデル経営体の育成**。
- 新たに農地を求めて**参入する企業への栽培支援**開始。

普及指導員だからできたこと

- ・品種比較・技術実証に際し、実施内容を企画立案し、県園芸振興協会キャベツ部会に提案、実施。地域・経営体への信頼が厚い普及指導員の存在が、県域での推進に繋がった。

担い手を中心とした県域キャベツ産地の実現

活動期間：平成 27～29 年度

1. 取組の背景

広島県では、「キャベツ 16 億円産地計画」（目標年次；平成 32 年度）を策定し、平成 29 年度（中間年）に栽培面積 260ha、販売額 10 億円の達成を目指した。

「県域キャベツ」を推進するうえで、遊休農地等を活用した大規模農業団地を整備すると共に、法人経営体を中心に収量向上を図り、計画生産・出荷できる体制の整備、温暖な南部から冷涼な北部地域にわたる県域での周年安定供給産地の構築に取り組んだ。

2. 活動内容（詳細）

(1) 「県域キャベツ」栽培指針等技術資料の作成・改訂

適切な現場指導を行う上で、統一した技術資料が必要との意見をうけ、指導所が中心となり、営農指導員など指導者向けの「栽培の手引き」やリーフレットを作成した。機械化体系の事例など最新の技術情報や、計画生産・出荷のための PDCA 管理様式の活用も掲載している。



(2) 県中部の法人経営体の収量向上に向けた支援

ターゲットとする ha 規模の経営体の多い県中部での、春・秋作での単収を確保し、栽培の成功体験から、大規模栽培へ誘導した。

実施した支援は以下のとおり

※県域での品種試験を企画立案し、販売面を加味した作型を確定。

※PDCA 管理実施のため、統一様式を作成、研修会を活用し、ターゲット経営体へ紹介し、普及推進。

※水田転換畑での排水対策（明渠, 高畝等）と、気象変動に影響されにくいマ

ルチを活用した新たな栽培法を提案，県域で展示ほを設置し，優位性を確認。



(3) 県域での周年安定供給産地の構築に向けた支援

今後，取組が本格化した時に備え，意欲ある経営体をモデルとして育成した。南部において，県内で事例のない晩抽性品種を用いた3～4月出荷，早生品種と被覆資材を用いた冬越し4～5月出荷の実証に取り組んだ。



3. 具体的な成果（詳細）

(1) 県目標とする成果

1) ロット確保のための大規模農業団地の整備

■キャベツ生産の核となる農業団地創設支援

指標	年度	平成 27 年度	平成 29 年度	増減
大規模農業団地数		0	4	+4 団地
大規模農業団地 栽培面積 (ha)		0	24	+24ha

大規模団地候補地における試作の実施。モデルとなる生産法人を育成するとともに，大規模栽培・産地育成に波及。

2) 担い手を中心となった産地を育成

■核となる法人経営体の安定生産への支援

指標	年度	平成 27 年度	平成 29 年度	増減
キャベツ 栽培面積 (ha)		140	194	+54ha
うち法人等 栽培面積 (ha)		99	146	+47ha
ターゲット経営体の 単収 (t/10a)		3.4	4.2 (H.28)	+0.8t/10a

4. 農家等からの評価・コメント（北広島町 A 農園）

水田転換畑での明渠や高畝などの排水対策と、マルチ栽培により、単収の向上を図ることができた。JA、指導所など関係機関が連携して、展示ほ設置やデータ収集を行い、技術の普及推進にあたってくれた。今後も引き続き連携し、産地の発展のために活動してほしい。

5. 普及指導員のコメント

（西部農業技術指導所・事業調整員（農業革新支援専門員）麓昌次郎）

今回の活動では、広島県園芸振興協会キャベツ部会の活動を通して、地域の新技術展示ほを設置し、その展示ほでの成功体験を多くの生産者に周知できたことが大きかった。展示ほの設置について、理解ある生産者を見つけ、協力を得られたことが成果に結びついた。

日頃の普及活動の積み重ねを大事にし、今後の活動に繋げていきたい。

6. 現状・今後の展開等

引き続き、ha 規模で生産を行う法人経営体を支援し、周年供給体制の確立を目指す。また、新たに農地を求めて参入する企業への支援を行う。

広島県園芸振興協会キャベツ部会との連携活動として、①単収の向上、②作業受委託の体系化、③作期拡大に取り組む。

また、県域を所管する農業革新支援担当として、関係普及指導員と連携し、①栽培技術の情報共有による目標収量の確保、②県南部～北部までを網羅したメガ経営体の支援を行う。